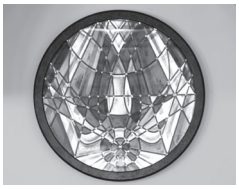
カトリック山形教会報
かすみ
8
2017.8.15



カトリック山形教会
〒990-0039　山形市香澄町2丁目11-15　TEL.023-622-3574　FAX.622-3590
ホームページ　http://www.catholic-yamagata.com/

殉教者の信仰の遺産を現代に生きる

米沢の53名福者殉教者を含むペトロ岐部と187殉教者の列福から、来年で10周年を迎えます。米沢教会では来年の殉教祭まで1年かけて市内各地の殉教地の巡礼や講演会などを行いながらお祝いすることを計画しています。

福者ルイス甘糟右衛門たちの信仰は、イエスの教えをその地で生きることでした。それは、祈りや信仰教育だけでなく、貧しい人を助け、病人を見舞い、身寄りのない死者を大切に葬ることでした。

さて、現代のわたしたちは、どのようにして信仰を生きればよいのでしょうか。イエスの教えを現代に生きるとはどういうことなのでしょうか。

それに応えるべく、日本の司教団は「いのちへのまなざし」というメッセージを2001年に出しました。そして16年経った今年、その「増補新版」が出されました。その理由は、「初版が発行されてからの十数年を振り返ってみると、いのちへの神のまなざしが、わたしたち一人ひとりのまなざしとなるという状況とは程遠い出来事が続いて」いるからです（「増補新版のための前書き」より）。

このことについてわたしたちの理解を深め、祈り、それを生活に生かしていくために、今年11月12日に新庄教会で開かれる山形地区大会のテーマを「いのちへのまなざしを生きるために」と設定しました。そして講師として、「増補新版」の作成に関わられた幸田和生司教様に来ていただきます。わたしたち一人ひとりのまなざしが、神様のまなざしに近づいていくことができますように、共に祈っていきたいと思います。

（カトリック山形教会主任司祭　千原通明）

菊地司教・山形教会公式訪問
ミサの中で堅信式

5月7日(日)新潟教区　菊地司教様の公式訪問があり、そのミサの中で8人の方が堅信の秘跡を受けられました。司教様の公式訪問は奇数年が秋田・山形地区、偶数年が新潟・新発田・長岡地区としておられますが、「今年、司教様が山形教会に来られると聞きますと、なにか“なつかしい”“ほっとする”と感じるのは私だけでしょうか?

説教の中で司教様は、キリストの受難の時には逃げ回ったペトロが、五旬祭の日、聖霊降臨があった後、「大衆を前にして声を張り上げイエスについて話しはじめた。そして多くの人々は素直にそれに耳を傾けたことを話され、ペトロは新たな人生に向かい大きく変わったことを感じる、と。

また、堅信(聖霊が注がれる)の意味を考えると、今日、堅信を受けられた方だけではなく此処にいる信者全員に、キリストの愛を伝えるものとなる義務が発生します。派遣されます。現代は、迫害以上に難しい時代、様々な雑音に囲まれこれほど難しい時代はない。どのようにして主の言葉を伝えるか?どのように証するのか?難しい時代。一人一人との関わりを通じて難しい事に挑戦しなければならない。

勇気をもって一歩前に進もう。聖霊が常に後ろから支え押してくれる。「勇気をもって前に進もう」と話されました。

ミサ終了後はヨハネ館において、司教様、堅信を受けられた方を囲み、総勢約60人が牛肉弁当で昼食会を行いました。この人数が集まったのは久しぶり、復活祭のお祝より多く感じます。皆様からの差し入れのメニューを並べますと旬の物がずらり、タケノコ汁、野菜を使った玉子サラダ、コシアブラとサツマイモの天ぷら、くきたちとウコギのおひたし、フキの煮物といずれも大変おいしく皆さん喜んで頂きました。

(2017・5・6　広報部)

聖週間に思うこと

今年も、受難節（四旬節中の、ご受難の主日から、復活の徹夜祭までの2週間）が、おとずれました。

私は、この時期がつらくて苦しみを感じます。ご受難の主日（枝の主日）のエルサレム入城のとき大勢の群衆は、イエス様を歓迎してむかえ入れます。しかし、イエス様はこれからご自分におこることを、もうすでに弟子たちにお話になられ、ご自分の死を覚悟されておられました。この心情を思いますと、いたたまれないほどの苦しみでいっぱいになります。やはりイエス様が、御父にいわれたお言葉こそがすべてであったと思われます（マタイ26.39）。私なら御父に「もう少し弟子たちが、私のいっていることを理解できるようになるまでまって下さい。」と願ったかもしれません。（イエス様がきいたら、また私のことがわからないのかとおっしゃることでしょうが…。）

そして、最後の晩さん、洗足、ゲッセマネの園での祈り、ユダの裏ぎり、大司祭カヤパの審問、ペテロの否認、ピラトの裁き、笞打ち嘲り、十字架の道行（ゴルゴダの丘への道）、磔刑、十字架おろし（ピエタ）、埋葬と続きます。イエス様は、新約の完全ないけにえとなられ、御父に対する愛と従順を尽くされました（コロサイ1·19−20）。

私は、聖金曜日におこなわれる、十字架の礼拝のなかで歌われる十字架賛歌（クルクス、フィデーリス）が、私を救ってくださいます。十字架はイエス様がおいでになる前は、死をもたらすいやしい木といわれていました。その木をイエス様はもっとも高く挙げられました。その木はイエス様をいだき、痛みと苦しみをもたらした釘は、イエス様の体をささえ聖なる小羊の血にそまり、聖なる十字架となったと歌われます。このようなものにまで、あわれみをかけられ、幸いとし、栄光をあたえられました。ぜひ来年は、この歌をうたいながらあじわっていただけたらと思います。

（マリア·ローザ　柴田利律子）

＊　＊　＊

今年、3月末にお一人また4月の聖週間に3人の方がお亡くなりになられました。

私ごとながら定年退職後、教会の仕事に関係することが多くあり、信者さん、信者さんに関係する方が危篤の時等に、何度か神父様から連絡を受けてご一緒することがありました。今回、その中で「亡くなられる前は“苦しそうな表情だった”のが、神父様にお祈りをしていただいたあと不思議と少しずつ穏やかな表情に変わり、時間が経つにつれ“本当に安心した表情になった”そして家族みんながホットした」という話を嬉しそうに話してくれました。

このとき一瞬、以前に神父様とご一緒した時の二つの出来事を思い出しました。一つ目は「今晩までが精一杯と言われ意識もない方に、御家族の希望で神父様が臨終の洗礼を授け、そして按手されたときに、その方の身体がピクンと動いたのです（家族の方も確認）、そしてその後三ヶ月間命を永らえられたことです。

また何年か前に戻りますが、ある方のこどもさんにも同じようなことがありました。病弱に生まれ「あと一ヶ月と言われ、神父様にお祈りのお願いがありました。同じように三ヶ月間命を永らえ担当医師がとても不思議がったことを思い出しました。

これらを加えて上記の家族の方達と「本当に不思議だね」「よかったね」と話合いましたが、単なる偶然の出来事でしょうか?皆様にも同様の経験をされた方がおられるのではないでしょうか?

私は性格的にまたこれまでの職業のせいか、幾何学的·法則·規則に沿った考え方を基本とすることが多く、以上のようなことはあまり信じないイヤな性格なのですが「亡くなった人が穏やかな表情になったこと」、「命を永らえたことで周りの人達を良かった!と安心させたこと、各々、神父様は違いますが、すべて神父様を通してのことです。これは幾何学や法則では証明できません。この事実は何なんでしょうか?

聖週間内に三つの葬儀があり、関係された皆様には大変なご苦労様をおかけしましたが、その中に以上のようなすばらしい出来事があったことをお知らせしたいと思います。

そして、うまく言い表すことは出来ませんが、三人の方のこの世との別れそして永遠の命への旅立ちは、キリストの受難·復活を通じた聖週間に倣うものがあるようにも思います。神様が私たちに与えてくれた賜物なのでしょうか。

2017·4·16（復活祭）　（洗者ヨハネ　柴田　博）

ようこそ!新発田教会の皆様

2017年6月17日の土曜日、新発田教会の佐藤充広神父様をはじめ20名の信者さんが山形教会を訪れてくださいました。そして11時のミサ時間に合わせ到着まもなく千原神父様の司式でミサが行われました。

ミサ後は、幼稚園を見学される方・教会周辺を散策される方・ヨハネ館を見学しながらヨハネ館についていろいろ聞かれる方と3グループに分かれていましたが、その中で(山形教会の方々が用意して下さったお茶とさくらんぼで一服しながら…)こんな話をされていました。

「バスが到着した目の前には新設されたばかりの山形聖マリアこども園があり、“きれいな教会”というのが印象深く残った」との声や、又、ある年配のおばあちゃんは、「幼児洗礼で色々教会を見てきたけど、教会全体がきれい、以前から山形教会の正面写真は見ていたが、実際を見て、写真同様だった!今回一緒にこれなれなかった友達によく話してやりたい」とお話しされていました。

新発田教会の皆様から“きれいな教会”と重ねて言って頂き、普段何げなく出入りし慣れてしまっている私達ですが、今回の感想を聞いて(改めて?)山形教会の魅力に気づかせてもらったような気がしました。ありがとうございました。

(広報部)

フォトグラフ

●復活祭・祝賀パーティー　4月16日(日)

●みこころ祭　6月4日(日)

「奇跡」

こんにちは、今年6月に洗礼を受け、皆様と共にカトリックの教えを、スタートさせた鈴木誠也と申します。

昨年から半年の間、千原神父の教えと皆様の心あたたまる善意によって、洗礼、そして教会での結婚式を挙げさせていただき本当にありがとうございました。

3年前、フィリピン・セブ島で一人バスに乗り観光をしていた時、港町の古い教会をバスの中から見て、ふと思いました。

「この古い教会の中を見てみたいな」そして次の日またバスで観光してた時、今の妻と知り合いました。そしてまた次の日、彼女の案内で、古い教会に行きました。その時教会では、結婚式の準備中で、赤いバージンロードがしきつめてあり二人で写真をとりました。

その時、たった二日間の出会の中で彼女に愛をつげました。あれから3年、愛は奇跡をもたらしてくれました。

何も無宗教だった私に、願い祈れば道がひらける事を、千原神父そして皆様の暖かい心で教えていただきました。

カトリック教の信仰のすばらしさを、これから少しずつ学んでいき、皆様に少しでもおいつけるようにがんばっていきます。

心から感謝です。心からありがとうございました。

（ペトロ　鈴木誠也）

●初聖体…奥　真凛ちゃん　6月18日（日）

●洗礼式…大類明美ちゃん　7月23日（日）

墓地ミサが行われました　2017年5月6日

5月6日、1年に3回計画されている墓地ミサ（1、春の彼岸　2、お盆　3、死者の月　この節は、墓を継承されている信者でない方々も墓参に訪れており全墓に花が飾られる）の1回目が10時から行われました。

ゴールデンウィークの始まりから晴天が続いていましたが、この日に限りあいにくの雨の予報。しかし雨雲データーはミサの時間は雨に合わないなど、ミサの準備してくださる方々を迷わせましたが、神父様の言葉に合わせミサは実施となりました。結果は雨に合いませんでしたが、改めて考えると責任のある大変な判断と思いました。

ミサの中で神父様は、「亡くなった日のことを『命日』と呼びます。けっして『死んだ日』とは呼びません。それは命の日であり、永遠の命の世界の誕生日なのです。地上での死は永遠の命への門であり、キリストと共に生き続けます。また、ミサは天上の家族と地上のわたしたちとをつなげる祈りです。ミサをささげるときは、この世をすでに旅だった家族や友人たちも天国で同じようにミサをささげていることを思い出し、共にささげましょう」とのお話をいただきました。そしてミサの間は皆さん天候のことなどは誰も気にする様子はありませんでした。

その後、各墓を祝福して頂き、最後に輪になってお茶、団子を頂きながら歓談、そしてさきに天にめされた方々とも各自歓談があったのではないでしょうか? 楽しい一時をいただきました。

神父様のお話にもありますように、墓地ミサは、この世をすでに旅立った教会の多くの先輩、友人、家族と共にささげるミサです。自分の墓地のあるなしに関わらずご参加ください。

最後に一言、帰り途中で一瞬の雨がありました。雨の判断は難しいですね! 神様本当にありがとうございました。

（2017･5.6　墓地管理部　柴田　博）